

科目名	ドイツ語 I	
担当者	山原 芳樹 / YAMAHARA, Yoshiki	
科目情報	外国語（ドイツ語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	文字と綴り・発音の原則を学習した後に、自然なドイツ語の発音ができるまで練習を重ねる。そのあとで、文法を学ぶ上で最も基本的な事項である「動詞の現在人称変化」と「名詞の格変化」を扱う。並行して、ドイツ語圏の人々の暮らしや文化についての映像や資料を紹介する。
	到達目標	1) ドイツ語の母音および子音に関する発音原則を理解し、単語や文章をきちんと音読できる。 2) 日常の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 3) 簡単な自己紹介ができるようになる。
授業計画	(1) アルファベット つづりと発音 ①母音 ②母音の連続 ③子音 (2) おはようございます! ①ドイツ語のあいさつ、②数詞(0~9) (3) 第1課「私は〜と申します」 ①人称代名詞 ②動詞の現在人称変化 (4) ③sein(〜である) (5) ④疑問代名詞 (6) 第2課「何をしているの?」①haben(持っている) (7) ②名詞の性 (8) ③語順 (9) ④決定疑問文と答え方 (10) 第3課「その帽子はいくらですか?」①定冠詞と名詞の格変化 (11) ②名詞の複数形 ③接続詞(並列の接続詞) (12) 第4課「コーヒーが一杯欲しい」 ①現在人称変化の不規則な動詞 (13) ②所有冠詞(不定冠詞類) (14) ③否定冠詞(不定冠詞類) (15) まとめ: 動詞編(現在人称変化)、名詞編(性・数・格)、文章編(語順、接続詞)	
自学自習	事前学習	・「教科書」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業内容の理解度を確認する小テストを毎回行う
使用教材・参考文献	使用教材	『ドイツ語インフォメーション neu2』 秋田静男他著、第3版、朝日出版社 (ISBN978-4-255-25358-9 C1084)
	参考文献	独和辞典を必ず用意すること。『新アポロン独和辞典』(同学社)、『新アクセス独和辞典』(三修社)、『新クラウン独和辞典』(三省堂)等、見出し語数が5万以上のものが望ましい。
成績評価の基準と方法	基準	ドイツ語の初歩的な文法事項を理解していて、評価点の合計が60点以上を取得した者は合格とする。
	方法	受講態度 15%、小テスト 25%、期末試験 60%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	ドイツ語Ⅱ	
担当者	山原 芳樹 / YAMAHARA, Yoshiki	
科目情報	外国語（ドイツ語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	前期に引き続いて定冠詞（類）および不定冠詞（類）の格変化を学習するとともに、あらたに前置詞の格支配についても学習し、その幅広い用法に理解を深める。また動詞関係では、話法の助動詞を学ぶ。
	到達目標	1) 代表的な不規則動詞の現在人称変化を言うことができる。 2) 定冠詞（類）および不定冠詞（類）のついた名詞の格変化形を言うことができる。 3) 前置詞を用いて場所や方法等を表現できる。 4) 人称代名詞の3格・4格の使い方が分かる。 5) 話法の助動詞を用いた表現ができる。
授業計画	(1) 第5課 「こちらザビーネです」 ①現在人称変化の不規則な動詞（1） (2) ②名詞の3格 ③人を表す疑問代名詞 (3) ④数詞Ⅱ(20-30) (4) 第6課 「何を注文する？」 ①現在人称変化の不規則な動詞（2） (5) ②人称代名詞 (6) ③非人称のes (7) 第7課 「市庁舎へはどう行ったらいいですか？」 ①前置詞（1） (8) ②前置詞（2） (9) ③前置詞（3） (10)④前置詞と定冠詞の融合形 (11)第8課 「あるいてホテルまで行くことができますか？」①話法の助動詞 （1）定義 (12)②話法の助動詞（2）変化形 (13)③話法の助動詞（3）主な意味 (14)④不定代名詞 ⑤数詞Ⅳ（40-59） (15)総復習：不規則変化動詞、人称代名詞、前置詞、話法の助動詞	
自学自習	事前学習	・「教科書」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業内容の理解度を確認するための小テストを毎回行う
使用教材・参考文献	使用教材	『ドイツ語インフォメーション neu2』 秋田静男他著、第3版、朝日出版社（ISBN978-4-255-25358-9 C1084）
	参考文献	独和辞典は必ず用意すること。『新アポロン独和辞典』（同学社）、『新アクセス独和辞典』（三修社）、『新クラウン独和辞典』（三省堂）等、見出し語数が5万以上のものが望ましい。
成績評価の基準と方法	基準	ドイツ語で家族紹介ができ、道を尋ねたり、買い物をしたりする基本的な表現を習得していて、評価点の合計が60点以上の者を合格とする。
	方法	受講態度 15%、小テスト 25%、期末試験 60%
備考	ドイツ語Ⅰを履修していることを前提にして授業を進める。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	ドイツ語Ⅲ	
担当者	山原 芳樹 / YAMAHARA, Yoshiki	
科目情報	外国語（ドイツ語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	話法の助動詞や分離動詞を学んで、表現内容の幅を広げるとともに、動詞三基本形の作り方を習得して、時称変化形の用法を会得する。また、形容詞で修飾する名詞の変化形の原則および代表的な不定代名詞の用法を学習する。
	到達目標	1) 代表的な話法の助動詞の変化形を言うことができる。 2) 分離動詞を用いて作文ができる。 3) 定冠詞（類）および不定冠詞（類）のついた名詞の格変化形を記すことができる。 4) 代表的な動詞の三基本形を言うことができる。 5) 現在完了形で報告文を書くことができる。
授業計画	(1) 第6課 話法の助動詞と枠構造 (2) 分離動詞と枠構造、「催し物」 (3) 従属接続詞と副文「鷗外とドイツ」 (4) 会話練習「コンサートに行きたい」 (5) 不定代名詞:文法練習問題 (6) 読んでみよう「ベルリンでコンサートに行く」 (7) 第7課 形容詞の付加語的用法 (8) 形容詞・副詞の比較、「食べ物」 (9) 会話練習「レストランでの食事」: 文法練習問題 (10)読んでみよう「原発に代わるエネルギーを」 (11)第8課 動詞の3基本形 作り方 (12)現在完了形の形と用法 (13)「昨日・今日・明日」: 文法練習問題 (14)会話練習「週末の外出」「天職」 (15)読んでみよう「世界文化遺産 ヴァルトブルク城」	
自学自習	事前学習	・「教科書」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	使用教材	『ブーメラン』小野寿美子・中川明博・西巻丈児著、2013年、朝日出版社 (ISBN978-4-255-25360-2 C1084)
	参考文献	独和辞典:『新アポロン独和辞典』(同学社)、『新アクセス独和辞典』(三修社)、『新クラウン独和辞典』(三省堂)等、見出し語数が5万以上のものが望ましい。
成績評価の基準と方法	基準	ドイツ語で簡単な家族紹介ができる。また長文の構造を分析し、辞書を用いながら、内容の概略を説明することができる。
	方法	受講態度 15%、小テスト 25%、期末試験 60%。
備考	ドイツ語Ⅱを履修したことを前提にして授業を進める。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	ドイツ語Ⅳ	
担当者	山原 芳樹 / YAMAHARA, Yoshiki	
科目情報	外国語（ドイツ語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	動詞の6時称の作り方と用法を習得し、これらの形を会話や作文で使用する力を高める。さらに、ドイツ語でよく用いられる形容詞・副詞の比較級、関係代名詞、再帰動詞等について理解を深めるとともに、受動態および接続法の用法についても時間が許すかぎり詳しく学ぶ。
	到達目標	1) 3基本形の作り方を理解し、重要なものを暗記する。 2) 過去形、現在完了形を会話や作文の中で運用できる。 3) 関係代名詞を用いて2つの文を結合することができる。 4) 受動態の作り方と意味を理解する。 5) 接続法の形と用法、意味について理解する。
授業計画	(1) 第9課 過去形の作り方 (2) 再帰代名詞と再帰動詞 (3) 相互代名詞「音楽関係の言葉」「マイスター試験」 (4) 会話練習「ヴァイマルで」：文法練習問題 (5) 読んでみよう「ドイツ屈指の文化都市 ヴァイマル」 (6) 第10課 zu不定詞の用法 (7) 関係代名詞 (8) 「祝祭」とお祝いの言葉：文法練習問題 (9) 会話練習 「冬休みに」「祭り」 (10) 読解練習「ケルンの水」 (11) 補足 受動態の作り方 (12) 受動態の用法 (13) 接続法とは何か、その作り方 (14) 接続法の用法 (1) 間接話法 (15) 接続法の用法 (2) 非現実話法	
自学自習	事前学習	・「教科書」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	使用教材	『ブーメラン』小野寿美子・中川明博・西巻丈児著、2013年、朝日出版社 (ISBN978-4-255-25360-2 C1084)
	参考文献	『新アポロン独和辞典』(同学社)、『新アクセス独和辞典』(三修社)、『新クラウン独和辞典』(三省堂)等、見出し語数が5万以上のものが望ましい。
成績評価の基準と方法	基準	ドイツ語で簡単な報告書が書ける。また長文を構造分析し、辞書を使いながら内容の概略を説明することができる。する。
	方法	レポート、試験などの成績評価手段を記入して下さい。また、複数の評価方法を使用する場合は、それらの基準、配分割合についても明記して下さい(テスト80%、受講態度2)
備考	・ドイツ語Ⅲの内容を理解したことを前提にして授業を進める。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	フランス語 I	
担当者	飯田 伸二 / IIDA, Shinji	
科目情報	外国語（フランス語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	初心者を対象とした講義です。日常会話を通して、フランス語の発音の基礎、基本的な文法を学びます。
	到達目標	フランス語による初歩的な自己紹介文にかんする会話文を学ぶことを通じ、フランス語の単語・文章を音読できるようになる。 フランス語による自己紹介の練習を行うことにより、フランス語で自己紹介が出来るようになる。
授業計画	(1) 教室で使う表現。自分の名前を言う。相手に名前を尋ねる。 (2) 教室で使う表現。第三者の名前を言う。第三者の名前を尋ねる。 (3) 自分の国籍・出身地を言う。相手に国籍・出身地を尋ねる。数字を1から10まで覚える。 (4) 第三者の国籍・出身地を言う。第三者の国籍・出身地を尋ねる。 (5) 自分の住んでいる場所を言う。相手に住んでいる場所を尋ねる。数字を60まで覚える。 (6) 自分の年齢を言う。相手・第三者の年齢を尋ねる。 (7) これまでの復習。買い物の練習。 (8) 自分の職業を言う。相手に職業を尋ねる。 (9) 自分が話せる言語を言う。相手に話せる言語を尋ねる。 (10) 第三者の職業、話せる言語を尋ねる。 (11) 数字を1000まで覚える。自分の電話番号を言い、相手に電話番号を尋ねる。 (12) これまでの復習。 (13) 自分の好きなこと嫌いなことを言う。相手に好きな事、嫌いな事を尋ねる。 (14) 自分が生まれた年、第三者が生まれた年を言う。 (15) 前期の復習とまとめ。	
自学自習	事前学習	適宜、事前学習用のプリントを配布します。授業前開始時に提出して下さい。事前に教科書に目を通して下さい。
	事後学習	授業の進度に合わせて、復習課題を課します。真面目に取り組んで下さい。
使用教材・参考文献	使用教材	中川 務, 中井 珠子, 曾我 祐典『フランス語 2020』白水社 2012年 ISBN 978-4-560-06105-3
	参考文献	詳細は開講時に指示します。
成績評価の基準と方法	基準	フランス語で自己紹介文が書け、簡単な質問にきちんとした文で答えることができる。
	方法	学期末試験 50%, 平常点（授業への参加具合+課題への取り組み）50%
備考	NHK のテレビ・ラジオのフランス語講座の視聴をお勧めします（特にラジオ）。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	フランス語Ⅱ	
担当者	飯田 伸二 / IIDA, Shinji	
科目情報	外国語（フランス語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	フランス語を半年学習した受講生向けの授業です。フランス語の発音や、文法の基礎（おもに不規則動詞の現在形）を学びます。
	到達目標	使用頻度の高いフランス語の規則動詞、不規則動詞を学ぶことで1週間の予定、1日の予定、過去にしたことが言える。 1日の予定に関する会話を学ぶことで、フランス語で正確な時刻が言える。動詞、場所・時刻の表現を学ぶことで、フランス語で相手を誘ったり、誘いを断ることができる。
授業計画	(1) 前期試験の講評。前期の復習。 (2) 曜日、動詞の活用。 (3) 前回の復習。1週間の予定。 (4) 前回の復習。週末の予定。 (5) 前回の復習。時刻にかんする表現。 (6) 前回の復習。一日の予定。 (7) 前回の復習。一日の予定（つづき）。 (8) 前回の復習。一日の予定（つづき）。 (9) 前回の復習。一日の予定（つづき）。動詞の活用。 (10) 前回の復習。一日の予定（まとめ）。動詞の活用（つづき）。 (11) 前回の復習。待ち合わせ、誘い、断りの表現。 (12) 前回の復習。待ち合わせ、誘い、断りの表現（つづき）。 (13) 前回の復習。天気を表す表現。 (14) 前回の復習。複合過去。 (15) 前回の復習。複合過去（つづき）。	
自学自習	事前学習	適宜、事前学習用のプリントを配布します。授業前開始時に提出して下さい。事前に教科書に目を通して下さい。
	事後学習	授業の進度に合わせて、復習課題を課します。真面目に取り組んで下さい。
使用教材・参考文献	使用教材	中川 務，中井 珠子，曾我 祐典『フランス語 2020』白水社 2012年 ISBN 978-4-560-06105-3
	参考文献	進度に応じ、適宜指示します。
成績評価の基準と方法	基準	フランス語で1日の予定、1週間の予定が書ける。1日の予定、1週間の予定に関する質問を理解し、的確に答えることができる。
	方法	学期末試験 50%，平常点（授業への参加具合＋課題への取り組み）50%
備考	NHK のテレビ・ラジオのフランス語講座の視聴をお勧めします（特にラジオ）。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	フランス語Ⅲ	
担当者	飯田 伸二 / IIDA, Shinji	
科目情報	外国語（フランス語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	フランス語1年間学習した受講生向けの授業です。フランス語の発音や、文法の基礎（おもに動詞の複合過去形）を学びます。
	到達目標	複合過去形を学ぶことによって、すでにしたこと、週末にしたことが言える。
授業計画	(1) 前学期の復習。 (2) 複合過去形（導入）。 (3) 前回の復習。週末にしたこと。動詞の活用（複合過去形）。 (4) 前回の復習。動詞の活用（複合過去形、まとめ）。 (5) 前回の復習。昨日したこと。 (6) 前回の復習。昨日したこと（つづき）。動詞の活用（複合過去形）。 (7) 前回の復習。旅行中にしたこと。動詞の活用（複合過去形）。 (8) 前回の復習。半過去（導入）。過去の習慣。 (9) 前回の復習。半過去。半過去と複合過去の使い分け。 (10) 前回の復習。半過去。半過去と複合過去の使い分け（つづき）。動詞の活用（半過去形） (11) 過去形のまとめ。 (12) 場所を表す表現。 (13) 場所を表す表現。自分が住んでいる町を紹介する。 (14) 場所を表す表現。自分が住んでいた町を紹介する（つづき）。 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	適宜、事前学習用のプリントを配布します。授業前開始時に提出して下さい。事前に教科書に目を通して下さい。
	事後学習	授業の進度に合わせて、復習課題を課します。真面目に取り組んで下さい。
使用教材・参考文献	使用教材	中川 務、中井 珠子、曾我 祐典『フランス語 2020』白水社 2012年 ISBN 978-4-560-06105-3
	参考文献	進度に応じ、適宜指示します。
成績評価の基準と方法	基準	フランス語ですでにしたこと、1週間にしたことが言える。それに関する質問に的確に答えることができる。自分と事物の位置関係が的確に表現できる。
	方法	学期末試験 50%，平常点（授業への参加具合＋課題への取り組み）50%
備考	NHK のテレビ・ラジオのフランス語講座の視聴をお勧めします（特にラジオ）。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	フランス語Ⅳ	
担当者	飯田 伸二 / IIDA, Shinji	
科目情報	外国語（フランス語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	既にフランス語を1年半学んだ受講生、あるいはそれに相当する語学力のある方を対象とした講義です。おもに過去の語り方、描写。勧誘に関する表現を学びます。
	到達目標	複合過去、半過去を学ぶことで、過去にしたことを語るができる。 形容詞を学ぶことで、人物、事物の描写ができる。 モード（法）について学ぶことで、したいこと、しなければならないことが言える。
授業計画	(1) 前学期の復習。 (2) できごとと背景。 (3) 前回の復習。複合過去と半過去の復習とまとめ。 (4) 前回の復習。品質形容詞。描写。 (5) 前回の復習。主観を表す表現。意見・印象。 (6) 前回の復習。指示代名詞。欲しい物を示す。 (7) 前回の復習。好き嫌い、その理由。 (8) 前回の復習。身体の調子。 (9) 前回の復習。したいこと。しなければならないこと。 (10) 前回の復習。助言する。 (11) 前回の復習。許可。 (12) 前回の復習。依頼・指示。 (13) 前回の復習。依頼・指示。メール、手紙の書き方。 (14) 前回の復習。依頼・指示。メール、手紙の書き方（続き）。 (15) まとめと復習。	
自学自習	事前学習	適宜、事前学習用のプリントを配布します。授業前開始時に提出して下さい。事前に教科書に目を通して下さい。
	事後学習	授業の進度に合わせて、復習課題を課します。真面目に取り組んで下さい。
使用教材・参考文献	使用教材	中川務、中井珠子、曾我祐典『フランス語 2020』白水社 2012年 ISBN 978-4-560-06105-3
	参考文献	進度に応じ、適宜指示します。
成績評価の基準と方法	基準	過去にしたことを語るができる。人物、事物の描写ができる。
	方法	学期末試験 50%，平常点（授業への参加具合＋課題への取り組み）50%
備考	NHK のテレビ・ラジオのフランス語講座の視聴をお勧めします（特にラジオ）。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	中国語 I	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業は中国語を初めて学ぶ人が対象です。現代中国語（普通話）の発音と文法を中心に、聞く、話す、読む、書くを総合的に学習します。
	到達目標	前期は入門編として、発音の習得に重点を置きます。「ピンイン」と呼ばれる発音記号にそって発音できるようになることが目標です。そのために口頭練習を繰り返し、音の上がり下がりである「声調」に慣れましょう。
授業計画	(1) 発音 1 声調、短母音、複母音 (2) 発音 2 無気音、有気音、そり舌音 (3) 発音 3 鼻音 (4) 発音 4 声調の組み合わせ (5) 第 1 課 「こんにちは」 動詞「是」、名前の言い方。「こんにちは、私は～と申します」 (6) 第 1 課        " (7) 第 2 課 「学校」        助詞「的」、疑問詞。「あなたはどちらの大学の学生ですか？」 (8) 第 2 課        " (9) 第 3 課 「新宿」        動詞述語文。「あなたはどこへ行きますか？」 (10) 第 3 課        " (11) 第 4 課 「カメラを買う」 形容詞述語文、助動詞。「私はデジタルカメラが買いたい」 (12) 第 4 課        " (13) 第 5 課 「家族を語る」 動詞「有」、年齢の言い方。「私には兄がいます」 (14) 第 5 課        " (15) 総復習	
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	学習した本文を暗誦しよう。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書：相原茂・陳淑梅・飯田敦子著『（簡明版）日中いぶこみ広場』朝日出版社、2014年新刊、ISBN 978-4-255-45237-1
	参考文献	参考書：相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』同学社、1996年、ISBN 4810200345
成績評価の基準と方法	基準	授業に休まず参加することが大切です。少なくとも全体の3分の2以上の出席が必要です。「ピンイン」にそって発音できるようになったものは合格とします。
	方法	受講態度（20%）、小テスト（30%）、期末試験（50%）。
備考	授業に積極的に参加することが単位取得の近道です。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国語 I	
担当者	谷口 明夫 / TANIGUCHI, Akio	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業は中国語を初めて学ぶ人が対象です。
	到達目標	1. 4種の声調と半3声、声調変化の規則を理解し、声母と韻母を正確に発音し、自分の名前を中国語で紹介できるようになる。 2. 簡単な挨拶、1～10の数字と「是」（である）と「有」（持っている）の構文を肯定、否定、疑問の形で言えるようになる。
授業計画	(1) 4つの声調とその声調には意味があるということ。単母音と声調の練習 (2) 単母音・複母音と声調の練習。挨拶の言葉、主語と述語だけの短文 (3) 声母の発音練習。無気音と有気音、摩擦音、巻舌音、新しい単語と文 (4) 鼻音の練習。1～10の数字の発音、新しい単語と文 (5) 第1課 人称代名詞と自己紹介 (6) 同上 発音、朗読の練習と練習問題 (7) 第2課 「是」（～です）の表現とその疑問形 (8) 同上 発音、朗読の練習と練習問題 (9) 第3課 目的語のある表現（～を～する）と形容詞述語文 (10) 同上 発音、朗読の練習と練習問題 「こそあど」言葉と「～的」（～の）の表現 (11) 同上 反復練習 (12) 第4課 「想～」（～したい） (13) 第5課 「有～」（～をもっている）数の言い方（1～9999億） 家族の呼び方 (14) 同上 反復練習 比較（～よりも～だ）の表現 (15) 練習問題 総まとめ	
自学自習	事前学習	付録のCDを聞いておく。
	事後学習	学んだ文法と新出単語を復習して覚える。
使用教材・参考文献	使用教材	相原茂・陳淑梅・飯田敦子『日中いぶこみ広場』 朝日出版社 2011年
	参考文献	相原茂 『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社 2002年
成績評価の基準と方法	基準	中国語で自分の名前を紹介できること、1～10の数字を正確に発音できることが合格の最低条件です。
	方法	発音：20点 筆記試験：80点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国語Ⅱ	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	「中国語Ⅰ」を履修した人が対象です。現代中国語（普通話）の発音と文法を中心に、聞く、話す、読む、書くを総合的に学習します。
	到達目標	前期に学習した発音を反復練習して定着させるとともに、後期終了の段階で、基本的な文法構造を理解して、簡略化された漢字である「簡体字」を用いて表現できるようになることが目標です。
授業計画	(1) 前期の復習 (2) 第6課「富士山」 経験をあらわす表現。「私は富士山に登ったことがあります」 (3) 第6課        " (4) 第7課「喫茶店」 年月日・曜日・時刻の言い方、前置詞。「毎日何時に寝ますか？」 (5) 第7課        " (6) 第7課        " (7) 第8課「街」       前置詞、時間量。「ここからまっすぐ」「どのくらいかかりますか？」 (8) 第8課        " (9) 第8課        " (10) 第9課「京都」   動詞「在」、進行の表し方。「どこにいますか？」「食事をしてい (11) 第9課        " (12) 第9課        " (13) 第10課「寿司」 主述述語文、結果補語。「お腹がすきましたか？」「書き終えまし (14) 第10課       " (15) 第10課       " 	
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	学習した本文を暗誦しよう。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書：相原茂・陳淑梅・飯田敦子『（簡明版）日中いぶこみ広場』朝日出版社、2014年新刊、ISBN 978-4-255-45237-1
	参考文献	参考書：相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』同学社、1996年、ISBN 4810200345
成績評価の基準と方法	基準	授業に休まず参加することが大切です。少なくとも全体の3分の2以上の出席が必要です。基本的な文法構造を理解して表現できるようになったものは合格とします。
	方法	受講態度（20%）、小テスト（30%）、期末試験（50%）。
備考	授業に積極的に参加することが単位取得の近道です。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国語Ⅱ	
担当者	谷口 明夫 / TANIGUCHI, Akio	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	中国語Ⅰで学んだ発音をさらに正確なものとし、語彙を増やし、新しい文法と表現を学びます。簡単な文章を読んで書く練習もします。
	到達目標	(1) 経験の表現、数字を使った表現(年月日・曜日・時刻等)、「～するのが好き」の表現を理解し使うことができる。 (2) 「要」・「能」などの助動詞を使うことができる。 (3) 「在～」・「从～到～」と結果補語の表現を理解し使うことができる。
授業計画	(1) オリエンテーション 前期の復習 第6課 本文の朗読と新しい単語 (2) 第6課 朗読、経験の表現 「～するのが好き」 助動詞「要」 (3) 同上 数詞を使った表現 練習問題 (4) 第7課 朗読と新しい単語 年月日、曜日、時刻の言い方 (5) 同上 文末の「了」 状況変化の表現 (6) 同上 練習問題 (7) 第8課 朗読と新しい単語 時間量の言い方 量詞の用法 (8) 同上 「～から」と「～へ」の表現 (9) 同上 朗読 練習問題 (10) 第9課 朗読と新しい単語 「～に在る」の表現 (11) 同上 「～しているところだ」 進行の表現 (12) 同上 朗読 練習問題 (13) 第10課 朗読と新しい単語 可能の表現 「能」 (14) 同上 結果補語 動作の結果まで含めた言い方 (15) 同上 練習問題 総まとめ	
自学自習	事前学習	・付属のCDで発音を聞いておく。
	事後学習	・学んだ文法と新出単語を復習して記憶する。 ・テキストの本文を何度も読み、書き写す。
使用教材・参考文献	使用教材	相原茂 陳淑梅 飯田敦子 『日中いぶこみ広場』 朝日出版社 2011年
	参考文献	相原茂編著 『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社 2002年
成績評価の基準と方法	基準	経験の表現や数詞を使った表現、助動詞・結果補語を含む文等を理解し、翻訳し、かつ簡単な作文ができたなら合格とします。
	方法	発音：20点 筆記試験：80点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国語Ⅲ	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	「中国語Ⅰ・Ⅱ」の学習を基礎に、現代中国語（普通話）の発音と文法を中心に、話す、聞く、読む、書くを総合的に学習します。特にこの時期は、語彙力を付けることに力を注ぎます。新出単語を、聞き取れる、発音できるようになって、語彙を増やして中国語の運用能力を高めることが目標です。「中国語Ⅰ・Ⅱ」を受講していること、あるいは同等の学習歴があることが受講の条件です。
	到達目標	1年次の学習を土台に、より高度な表現を習得します。文法体系の学習をさらに進めて語彙を増やし、前期終了の段階で、日常生活でよく使うような表現ができることが目標です。
授業計画	(1) 一年次の復習 (2) 一年次の復習 (3) 第11課「スキー」 様態補語 (4) 第11課「スキー」 練習 (5) 副教材 実践会話練習・中国語検定問題 (6) 第12課「動物園」 方向補語1 (7) 第12課「動物園」 方向補語2 (8) 第12課「動物園」 練習 (9) 副教材 実践会話練習・中国語検定問題 (10) 第13課「春休み」 疑問詞の不定用法 (11) 第13課「春休み」 仮定の表現 (12) 第13課「春休み」 練習 (13) 副教材 実践会話練習・中国語検定問題 (14) 総復習（整理プリント） (15) 総復習（整理プリント）	
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	学習した本文を暗誦しよう。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書：相原茂・陳淑梅・飯田敦子『（簡明版）日中いぶこみ広場』朝日出版社、2014年新刊、ISBN 978-4-255-45237-1
	参考文献	参考書：相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』同学社、1996年、ISBN 4810200345
成績評価の基準と方法	基準	授業に休まず参加することが大切です。少なくとも全体の3分の2以上の出席が必要です。日常会話に必要な基本的語彙を習得して、会話、作文ができたものは合格とします。
	方法	受講態度（20%）、小テスト（30%）、期末試験（50%）。
備考	授業に積極的に参加することが単位取得の近道です。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国語Ⅳ	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学習を基礎に、現代中国語の発音と文法を中心に、話す、聞く、読む、書くを総合的に学習します。後期は二年間の中国語学習のまとめの時期です。これまで習った単語や文法事項を駆使して、少し長い中文の読解ができることや、中国語による基本的な日常会話ができるようになることが目標です。「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を受講していること、あるいは同等の学習歴があることが受講の条件です。
	到達目標	一年次および二年次前期の学習の成果を試すために、中国検定試験の問題にチャレンジします。中国語検定はリスニングと筆記で構成されています。中国語の基礎力を固めることが目標です。また基本的な中国語による日常会話を二人一組で行い、実践力を身につけることも目標です。
授業計画	(1) 前期の復習 (2) 第14課「空港の外」 可能補語 (3) 第14課「空港の外」 「把」構文 (4) 第14課「空港の外」 練習 (5) 副教材 実践会話練習・中国語検定問題 (6) 第15課「空港の外」 選択疑問文 (7) 第15課「空港の外」 使役の表現 (8) 第15課「空港の外」 練習 (9) 副教材 実践会話練習・中国語検定問題 (10) 第16課「部屋の中」 「もうすぐ～する」 (11) 第16課「部屋の中」 受け身の表現 (12) 第16課「部屋の中」 練習 (13) 副教材 実践会話練習・中国語検定問題 (14) 総復習（整理プリント） (15) 総復習（整理プリント）	
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	学習した文を暗誦しよう。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書：相原茂・陳淑梅・飯田敦子『（簡明版）日中いぶこみ広場』朝日出版社、2014年新刊、ISBN 978-4-255-45237-1
	参考文献	参考書：相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』同学社、1996年、ISBN 4810200345
成績評価の基準と方法	基準	授業に休まず参加することが大切です。少なくとも全体の3分の2以上の出席が必要です。中国語検定試験問題の6割が正解すれば合格とします。
	方法	受講態度（20%）、小テスト（30%）、期末試験（50%）。
備考	授業に積極的に参加することが単位取得の近道です。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	韓国語 I	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業は韓国語を初めて学習する人が対象です。韓国語の文字（ハングル）と発音から学びます。授業は、①目標会話のあらすじの確認 ⇒ ②単語と表現の学習 ⇒ ③本文の聞き取り ⇒ ④文法と表現の学習 ⇒ ⑤発音練習 ⇒ ⑥翻訳練習 ⇒ ⑦会話練習の順で行います。
	到達目標	(1) 韓国語の文字と発音を正確に習得する。 (2) 自己紹介ができる。 (3) プレゼントを贈ったり、受け取ったりする時の会話ができる。 (4) 出身地について尋ねたり、表すことができる。 (5) 家族やペットについて尋ねたり、表すことができる。 (6) 持ち物や友人について尋ねたり、表すことができる。
授業計画	(1) 韓国語の文字と発音 (2) 韓国語の文字と発音 (3) 韓国語の文字と発音 (4) 韓国語の文字と発音 (5) 第1課 私はイユジンです。(自己紹介) (6) // (7) 第2課 これプレゼントです。(プレゼントの受け渡し) (8) // (9) 第3課 どこの出身ですか。(出身地について) (10) // (11) 第4課 この人は誰ですか。(家族やペットについて) (12) // (13) 第5課 ソウルに韓国人の友達がいるんです。(持ち物や友人について) (14) // (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	前回の授業で学習した部分の音読練習
	事後学習	授業で扱った部分の音読練習、宿題、小テストの勉強
使用教材・参考文献	使用教材	入佐信宏・金孝珍 『これで話せる韓国語 STEP1』 白帝社 2015年
	参考文献	授業の中で必要に応じて紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標に達した者を合格とします。
	方法	授業での積極性(10点)、小テスト(40点)、期末試験(50点)で評価します。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	韓国語 I	
担当者	金 孝珍 / Kim, Hyojin	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業は韓国語を初めて学習する人が対象です。韓国語の文字（ハングル）と発音から学びます。授業は、①目標会話のあらすじの確認 ⇒ ②単語と表現の学習 ⇒ ③本文の聞き取り ⇒ ④文法と表現の学習 ⇒ ⑤発音練習 ⇒ ⑥翻訳練習 ⇒ ⑦会話練習の順で行います。
	到達目標	(1) 韓国語の文字と発音を正確に習得する。 (2) 自己紹介ができる。 (3) プレゼントを贈ったり、受け取ったりする時の会話ができる。 (4) 出身地について尋ねたり、表すことができる。 (5) 家族やペットについて尋ねたり、表すことができる。 (6) 持ち物や友人について尋ねたり、表すことができる。
授業計画	(1) 韓国語の文字と発音 (2) 韓国語の文字と発音 (3) 韓国語の文字と発音 (4) 韓国語の文字と発音 (5) 第1課 私はイユジンです。(自己紹介) (6) 〃 (7) 第2課 これプレゼントです。(プレゼントの受け渡し) (8) 〃 (9) 第3課 どこの出身ですか。(出身地について) (10) 〃 (11) 第4課 この人は誰ですか。(家族やペットについて) (12) 〃 (13) 第5課 ソウルに韓国人の友達がいるんです。(持ち物や友人について) (14) 〃 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	前回の授業で学習した部分の音読練習
	事後学習	授業で扱った部分の音読練習、宿題、小テストの勉強
使用教材・参考文献	使用教材	入佐信宏・金孝珍 『これで話せる韓国語 STEP1』 白帝社 2015年
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標に達した者を合格とします。
	方法	授業での積極性(10点)、小テスト(40点)、期末試験(50点)で評価します。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	韓国語Ⅱ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業は「韓国語Ⅰ」の履修者または韓国語を3ヶ月程度学習した人が対象です。授業は、①目標会話のあらすじの確認 ⇒ ②単語と表現の学習 ⇒ ③本文の聞き取り ⇒ ④文法と表現の学習 ⇒ ⑤発音練習 ⇒ ⑥翻訳練習 ⇒ ⑦会話練習の順で行います。
	到達目標	(1) 居場所について尋ねたり、表すことができる。番号・月日等を表現できる。 (2) 習慣を尋ねたり、表すことができる。 (3) 予定を尋ねたり、表すことができる。 (4) 個数、年齢、時間等を表現できる。 (5) 週末にやったことについて尋ねたり、表すことができる。 (6) やらなかったこと、まだやっていないことを表現できる。電話番号を表現できる。 (7) 気持ちや感じたこと、状態や性質について表現できる。
授業計画	(1) 第6課 私は図書館にいます。(居場所、漢語の数詞) (2) 〃 (3) 第7課 普通休みの日は何しますか。(動詞のへヨ体) (4) 〃 (5) 第8課 今週の土曜日に何しますか。(動詞のへヨ体、動詞の否定形) (6) 〃 (7) 第9課 映画は何時に始まりますか。(固有語の数詞、時刻) (8) 〃 (9) 第10課 週末は何しましたか。(動詞の過去形) (10) 〃 (11) 第11課 電話番号は何番ですか。(動詞の過去形<否定>、電話番号) (12) 〃 (13) 第12課 今電話大丈夫ですか。(形容詞のへヨ体) (14) 〃 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	前回の授業で学習した部分の音読練習
	事後学習	授業で扱った部分の音読練習、宿題、小テストの勉強
使用教材・参考文献	使用教材	入佐信宏・金孝珍 『これで話せる韓国語 STEP1』 白帝社 2015年
	参考文献	授業の中で必要に応じて紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標に達した者を合格とします。
	方法	授業での積極性(10点)、小テスト(40点)、期末試験(50点)で評価します。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	韓国語Ⅱ	
担当者	金 孝珍 / Kim, Hyojin	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業は「韓国語Ⅰ」の履修者または韓国語を3ヶ月程度学習した人が対象です。授業は、①目標会話のあらすじの確認 ⇒ ②単語と表現の学習 ⇒ ③本文の聞き取り ⇒ ④文法と表現の学習 ⇒ ⑤発音練習 ⇒ ⑥翻訳練習 ⇒ ⑦会話練習の順で行います。
	到達目標	(1) 居場所について説明できる。番号・月日等を表現できる。 (2) 習慣について表現できる。 (3) 予定について表現できる。 (4) 個数、年齢、時間等を表現できる。 (5) 週末にやったことについて表現できる。 (6) やらなかったこと、まだやっていないことを表現できる。電話番号を表現できる。 (7) 気持ちや感じたこと、状態や性質について表現できる。
授業計画	(1) 第6課 私は図書館にいます。(居場所、漢語の数詞) (2) // (3) 第7課 普通休みの日は何しますか。(動詞のへヨ体①) (4) // (5) 第8課 今週の土曜日に何しますか。(動詞のへヨ体②、動詞の否定形) (6) // (7) 第9課 映画は何時に始まりますか。(固有語の数詞、時刻) (8) // (9) 第10課 週末は何しましたか。(動詞の過去形) (10) // (11) 第11課 電話番号は何番ですか。(動詞の過去形<否定>、電話番号) (12) // (13) 第12課 今電話大丈夫ですか。(形容詞のへヨ体①) (14) // (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	前回の授業で学習した部分の音読練習
	事後学習	授業で扱った部分の音読練習、宿題、小テストの勉強
使用教材・参考文献	使用教材	入佐信宏・金孝珍 『これで話せる韓国語 STEP1』 白帝社 2015年
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標に達した者を合格とします。
	方法	授業での積極性(10点)、小テスト(40点)、期末試験(50点)で評価します。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	韓国語Ⅲ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業は「韓国語Ⅱ」の履修者または韓国語を6ヶ月程度学習した人が対象です。授業は、①目標会話のあらすじの確認 ⇒ ②単語と表現の学習 ⇒ ③本文の聞き取り ⇒ ④文法と表現の学習 ⇒ ⑤発音練習 ⇒ ⑥翻訳練習 ⇒ ⑦会話練習の順で行います。
	到達目標	(1) 気持ちや感じたこと、状態や性質について表現できる。 (2) 過去に経験したこと、感じたことについて表現できる。 (3) やってみるように促したり、依頼することができる。 (4) 得意なこと・苦手なことを表現できる。 (5) 意志・予定を表現できる。くだけた文体で話すことができる。 (6) 意向を尋ねたり、表すことができる。 (7) 希望・願望を尋ねたり、表すことができる。
授業計画	(1) 第13課 学校の授業は難しくないですか。(形容詞のへヨ体②、形容詞の否定形) (2) 〃 (3) 第14課 あの映画どうでしたか。(形容詞の過去形) (4) 〃 (5) 第15課 理沙さんがたくさん教えてくださいね。(一度やるように促す、依頼する) (6) 〃 (7) 第16課 二人とも韓国語本当にうまいですよ。(得意なこと、苦手なこと) (8) 〃 (9) 第17課 僕も韓国に帰るつもりだよ。(意志・予定を表す、くだけた文体) (10) 〃 (11) 第18課 一緒に韓国に行きませんか。(意向を尋ねる・表す、意志を表す) (12) 〃 (13) 第19課 参鶏湯を食べたいです。(希望・願望を表す、意志・約束を表す) (14) 〃 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	前回の授業で学習した部分の音読練習
	事後学習	授業で扱った部分の音読練習、宿題、小テストの勉強
使用教材・参考文献	使用教材	入佐信宏・金孝珍 『これで話せる韓国語 STEP1』 白帝社 2015年
	参考文献	授業の中で必要に応じて紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標に達した者を合格とします。
	方法	授業での積極性(10点)、小テスト(40点)、期末試験(50点)で評価します。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	韓国語Ⅳ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業は「韓国語Ⅲ」の履修者または韓国語を9ヶ月程度学習した人が対象です。授業は、①目標会話のあらすじの確認 ⇒ ②単語と表現の学習 ⇒ ③本文の聞き取り ⇒ ④文法と表現の学習 ⇒ ⑤発音練習 ⇒ ⑥翻訳練習 ⇒ ⑦会話練習の順で行います。
	到達目標	(1) 食事や飲み物を注文することができる。 (2) 同意を求めたり、今感じたことについて表現できる。 (3) 改まった丁寧な文法で話すことができる。 (4) 可能なことを表現できる。 (5) 過去の経験を尋ねたり、表すことができる。 (6) 何かを提案して意見を求めることができる。 (7) 行動を促すことができる。
授業計画	(1) 第20課 何になさいますか。(食事や飲み物を注文する) (2) 〃 (3) 第21課 本当においしいですね。(同意を求める、感嘆) (4) 〃 (5) 第22課 美味しくいただきました。(動詞・形容詞のハムニダ体) (6) 〃 (7) 第23課 遊覧船から夜景を見ることができますか。(可能であること) (8) 〃 (9) 第24課 漢江遊覧船乗ったことがありますか。(経験の有無) (10) 〃 (11) 第25課 明日は何しましょうか。(提案して、意見を求める) (12) 〃 (13) 第26課 思い出たくさん作ってくださいね。(行動を促す) (14) 〃 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	前回の授業で学習した部分の音読練習
	事後学習	授業で扱った部分の音読練習、宿題、小テストの勉強
使用教材・参考文献	使用教材	入佐信宏・金孝珍 『これで話せる韓国語 STEP1』 白帝社 2015年
	参考文献	授業の中で必要に応じて紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標に達した者を合格とします。
	方法	授業での積極性(10点)、小テスト(40点)、期末試験(50点)で評価します。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル